

済生会は医療連携を通して、地域の診療所と共に皆様の健康をリレーします。

Baton

地域医療連携室だより

夏号
vol.61

平成24年7月1日発行



— 撮影 —
生理機能検査室
飯田 美枝

TOPICS



- P2 【特集】
地域医療支援病院の役割と
かかりつけ医の紹介について
- P4 登録医紹介(まつい整形外科・金子医院)
- P6 職場探訪(B5病棟・戦略企画室)
- P7 開催報告(肝臓病教室・臨床検討会特別例会)
- P8 インフォメーション

地域医療支援病院 臨床研修病院 地域がん診療連携拠点病院

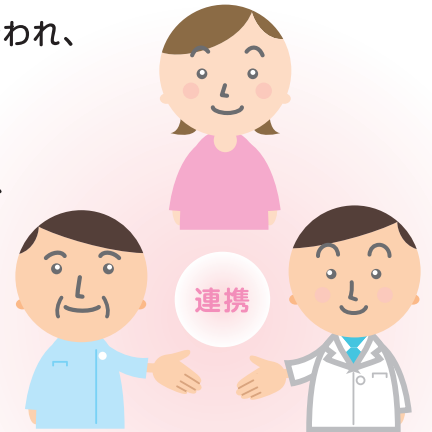
 済生会新潟第二病院・地域医療連携室

新潟市西区寺地280-7 TEL 025-233-6182 FAX 025-231-5763

<http://www.ngt.saiseikai.or.jp>

地域医療支援病院の役割と かかりつけ医の紹介について

今年4月の診療報酬改訂では、在宅医療の強化や今まで以上の医療機関相互の連携強化が謳われました。また、来年には保健・医療・福祉分野における地域医療計画の見直しが行われ、各分野におけるそれぞれの施設間での連携の真価が問われます。そして現在、厚生労働省では「特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会」が開かれ、その役割が議論されています。これからますます地域医療支援病院として、当院の役割は重要になってきます。ここで、あらためて地域医療支援病院の役割について、またかかりつけ医紹介の意味について考えていきたいと思います。

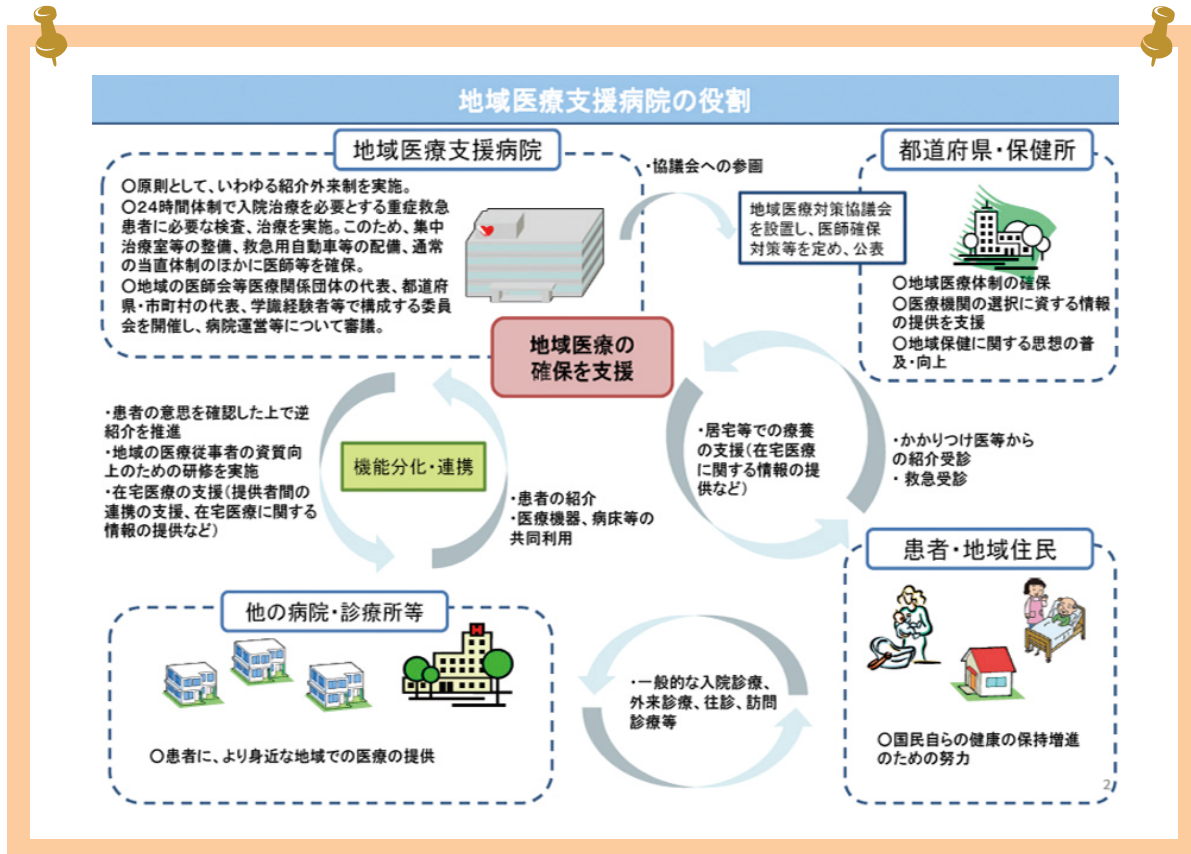


地域医療支援病院とは？

当院は、平成14年8月、新潟県から地域医療支援病院に承認されました。地域医療支援病院とは、地域の診療所（以下かかりつけ医）から、病院で診断・治療が必要とされた紹介患者さんに対して、病床や検査機器の共同利用を通じ、急性期入院治療を中心とした医療を提供する病院です。そのような趣旨から、当院へ受診の際は、原則としてかかりつけ医からの『紹介状』を持参していただくこととなっています。



また当院では、地域医療支援病院の趣旨から、かかりつけ医が入院病床で当院の医師と共同で診療することや、高度医療機器を共同利用することが可能です。地域における各医療機関（かかりつけ医、機能の違う病院）がお互いの機能に応じた役割を發揮し、患者さんに対して最良な医療を提供することが重要です。当院は地域における医療提供体制の中で、このことを十分に理解し、かかりつけ医・他病院との医療連携を積極的に推進する使命があります（資料「地域医療支援病院の役割」厚生労働省：図1）。



(図1)

かかりつけ医の紹介について

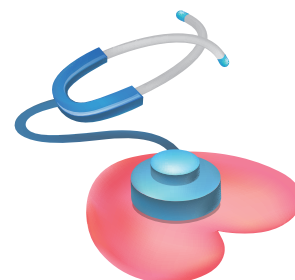
以上の意味から、外来・入院治療で「診断がつき、治療の方向性が示され、経過が安定している」方は、当院医師から紹介元や疾患に応じた医療機関へ紹介させていただいております。かかりつけ医への紹介後、また当院での治療が必要と判断された際には、かかりつけ医が当院へ紹介状を書いてくださいます。その際には、地域医療連携室が予約調整窓口となり、スムーズな受診が可能となります。かかりつけ医に関しては、院内に備え付けの「医療連携協力機関マップ」(各科外来の小冊子、院内に掲示のパネル)をご覧ください。

地域のかかりつけ医についてのご相談は、主治医あるいは1階待合ホール脇の地域医療連携室までお寄せください。



さいごに

当院は、新潟市医師会、五泉市東蒲原郡医師会、加茂市医師会、燕市医師会と病診連携に関する協定を結び、当院と登録関係にあるかかりつけ医と協力して、地域に根ざした医療を推進しております。この地域で、理想的な医療提供体制を構築していくため、患者さんと共に、かかりつけ医・病院とが協力し合い、この体制を育てていく必要があります。今後とも何卒ご理解とご協力の程よろしくごお願い申し上げます。



オープンシステム



まつい整形外科
整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

まつい としあき
松井 俊明 先生

専門領域

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

医師・医院PR

はじめまして。昨年11月に新潟市東区にオープンいたしました「まつい整形外科」と申します。済生会第二病院様には手術患者さんの紹介等で大変お世話になっております。当院は診療所ですので手術治療は行えませんが、常に患者さんの手術適応を考え、日常診療を行っているつもりです。また小さな職場ですのでスタッフの働きやすい「明るく楽しい職場」を目指しております。まだ開業して半年余りですが、地域に根ざした敷居の低い診療所を目指し、日々スタッフと努力を続けている毎日です。是非お近くにお住いの方は、お気軽に受診していただきますようお願い申し上げます。



まつい整形外科
整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
〒950-0835
新潟市東区猿ヶ馬場2-13-26
☎025-278-5115

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
15:00~18:30	○	○	×	○	○	×

◎休診日／水・土曜午後、日曜祝祭日

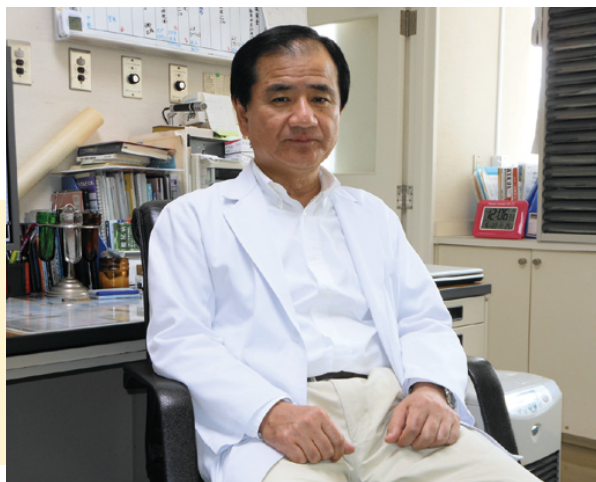


登録医訪問

金子医院

内科・循環器内科・小児科

かねこ よしのぶ
金子 義伸 先生



専門領域

循環器

医師・医院PR

私の患者さんのがん連携パスを用いることで、この度登録医となりました。私の所属する五泉市東蒲原郡医師会は医師の数も少なく、又お互いに2代～3代という付き合いの人も多く、循環器という専門領域にとらわれずいわゆる“かかりつけ医”として診療にあたっています。

今後とも済生会新潟第二病院のお力添えの程、宜しくお願い申し上げます。



金子医院
内科・循環器内科・小児科
〒959-1704
五泉市村松甲1772
☎0250-58-6073

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	△ 第1・3休診	○	○
14:00~18:00	○	○	○	△ 第1・3休診	○	×

◎休診日／第1、3木曜、土曜午後 日曜祝祭日（第2、4、5木曜は通常どおり）
※往診がある場合、午後の診察は15:00からとなる事があります。





当院の部署を

職場探訪

紹介します!



職場探訪は、院内報MINDに毎月掲載しているコーナーです。地域のみなさんにも紹介させていただきます。

B5病棟

最近のB5の患者風景を紹介します。お母さんが帰宅したあとナースステーションで折り紙をする小児。マツタ君が鳴り続け、廊下までずたずた歩いてきている91歳循内のおばあちゃん。アイスを大量買いし病棟の冷凍庫を満杯にする外科患者。やっと外泊できたけど、夫婦喧嘩をしてきたと嬉しそうに話す血内患者。大腿までギプスを巻き足台付き車椅子で食事をする整形患者。消内は沢山いて紹介しきれません。

B5病棟は小児科・血液内科・耳鼻科・循環器+他の診療科が3~5科存在する混合病棟です。朝と夕方は顔合わせのように医師が入り乱れて指示を出しています。小児科の先生たちは座る場所もないのに不平も言わず、花澤先生はいつもにこやかに来棟し、小山先生はマイペースで仕事をされ、病棟の慌ただしさに翻弄されず勤勉に働いていらっしゃいます。28名の看護師と2人の看護補助者は険しくなりそうな顔を笑顔に変え、「入院準備しとくよ」「看護計画手伝おうか」「ナースコール行きます」と声を掛け合い、助け合って仕事をしているスタッフに「☆3つ」あげたいところです。

異動してきて6ヶ月。10年ぶりに子どもをおぶって肩が凝り年を感じますが、アットホームなB5でみんなの支えとなれるよう頑張ります。

(B5師長 北島孝子)



戦略企画室

皆さんこんにちは。今回は「戦略企画室」を紹介します。「戦略企画室」という部署は、比較的最近、平成18年4月1日付で発足しました。その目的は「病院全体を将来のあるべき姿に近づくように、可能性のある変化を取り込むこと」とされ、中長期計画の策定と進捗管理、マーケティング等の戦略策定と管理、経営管理層への情報の提供とプロジェクトへの参画といったトップサポート、既存媒体の戦略的な展開と新規の企画開発という戦略的広報、その他種々の企画調整がその業務としてあげられています。こう書くと何だか難しい事をやってる部署のように思われますが、身近で具体的なものとしては年2回開催している「いきいき健康セミナー」や「夏休み病院見学会」、病院ホームページの作製・更新、アクションプランの作製援助、院内医療情報の外部への広報、またDPC導入支援等があります。

このように非常に多岐にわたる業務内容ですが、驚く事にこの部署の専従職員は広報(デザイン含む)担当の1名のみで、他のものは他の部署との兼務となっています。また、この部署には専用の部屋もなく、この写真のように月1回の定期ミーティングを行って、業務の進捗確認と次回までの課題を持ち帰って職務を遂行しているという状況です。所属する各部署の日常業務に加えて、戦略企画室の業務も



並行している企画室員の能力の高さと熱意には頭が下がります。

最後にこれからの企画室ですが、設立当初はアクションプランや種々の企画に戸惑い気味だった職員の皆さんも、全くそれに違和感なく取り組んでおられる姿を見ると、そろそろ次の段階に進むべきかなとも考えています。それがリーダーを含めたメンバーの入れ替え、または組織全体の改変まで必要になるかどうかはまだ今のところ未定ですが、目まぐるしく変化する病院経営環境に対応するために設立された「戦略企画室」も、常に新しいものを取り入れて変化しなければ・・・と考えています。今後も地域の皆様の御理解と御協力を御願い致します。

(戦略企画室リーダー 多賀紀一郎)

肝臓病教室 開催報告

2012年3月31日(土)当院の10階会議室で「肝炎・肝硬変」をテーマとした第9回肝臓病教室を開催しました。参加者の中には、先日ユニゾンプラザで開催した肝臓病セミナー参加を機に今回の教室に参加された方や、立川総合病院からの見学もおられ、今回も227名と大変多くの方に参加して頂きました。



懇談会では、インターフェロン治療を迷っている方がおられましたが、患者さんやご家族の熱心なお言葉により「やったほうがいいんだね」と治療への前向きなお言葉が伺え、また教室後には、初めて参加された方より「今まで市民公開講座には行ったことがあったが、院内でこのような会をして頂けるなんて本当に助かります。やはり同じような患者さんと話をすることが何より励みになりました」とのお言葉を頂きました。今後も当教室が、患者さんやご家族にとって辛苦の共有の場となることを願っております。

次回は「肝臓がん」をテーマに7月28日開催予定です。次回も多くの皆様の参加をお待ちしています。

(肝臓病教室 看護師 阿部弘子)

臨床検討会・特別例会 開催報告

当院では病診連携活動の一環として毎月臨床検討会を開催しており、院内各科の先生方が講演形式で情報提供を行っています。例年5月は特別例会として、外部から講師をお招きして講演をお願いしていますが、本年は新潟大学医歯学総合研究科呼吸循環外科学分野教授の土田正則先生から「機能温存と根治性を目指した肺癌手術」と題してお話をいただきました。肺癌手術の歴史から始まり、手術術式・治療方法の移り変わり、治療成績といった興味深いお話を聞くことができました。その中でも日本の方が欧米よりずっと肺癌手術の治療成績が良いことに関しては、日本における肺癌の進行度を決定する方法の厳密さを挙げられ、それに続いて決定される治療法の違いではないかといった鋭い指摘をされていました。またこれから日本の肺癌手術で主流に

なると思われる機能温存手術について、自分も含めた日本の多施設でこれから行う追試でその有効性を証明していくのだという新しい治療法に取り組む真摯な態度が感じられました。将来の夢として肺移植術も視野に入れるなど、穏やかな外見からは想像もつかないみなぎる熱意と情熱が感じられる講演でした。



▲ 土田 正則 先生

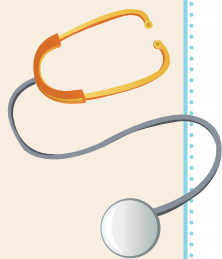
(副院長 多賀紀一郎)

新規登録医紹介

医 院 名	診療標榜科目	住 所	登録医名
寺尾整形外科クリニック	整形外科	新潟市西区寺尾東3-9-10	鈴木 義隆
金子医院	内科・循環器内科	五泉市村松甲1772	金子 義伸
わたなべ内科・青山クリニック	内科・消化器内科	新潟市西区青山1-2-21	渡辺 卓也
杉山内科医院	内科・内視鏡内科・胃腸肝臓内科	新潟市南区清水250-2	杉山 幹也
きんとう整形外科クリニック	整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科	新潟市東区空港西1-19-5	金藤 直樹

※H24年6月30日現在、登録医総数は382人です。

第173回 臨床検討会開催のお知らせ



日時：平成24年7月24日(火) 19:00～

会場：済生会新潟第二病院10F会議室

担当：外科



連携医療機関の
みなさま

表紙を飾ってみませんか？

引き続き、表紙を飾っていただける写真を募集しています。
ご自慢の写真はありませんか？

▶お問い合わせは、地域医療連携室までお願い致します。



編集後記

先日研修で長野県を訪ねました。ご存じの方もいらっしゃると思いますが長野県は平均寿命が男性1位、女性4位、なおかつ死亡率も日本一低いという長寿県です（因みに新潟県は男性23位、女性9位）。また20年近く連続して一人当たりの医療費、入院・外来件数、入院日数も軒並み最少またはそれに近い位置にあります。何故これほどまでに健康づくりが進んでいるのか？それにはまず住民、行政がともに健康づくりに積極的に取り組んでいる事が挙げられます。加えて持ち家率の高さ、離婚率の低くさゆえに高齢者のみの世帯率が低い事、訪問介護・看護件数が日本一で在宅死亡率が全国でも上位である事、また野菜摂取量が全国一多い事や「県民減塩運動」の効果もあるようです。濃い味付けが好きな私も、これを機に食生活を見直してみようと思います。

(齋藤 浩生)

長野県

